

図中 単位省略

CKD予防連携システムの流れ <簡略版>

CKD予防連携システム該当対象者
(CKD様式1・特定健診結果通知表持参)

CKD予防連携システム該当基準
eGFR60未満または検尿異常
(尿蛋白+または尿潜血2+以上)
または、HbA1c6.0%以上

特定健診結果通知表よりCKD該当項目、検査結果等を確認

一次医療機関（かかりつけ医）

●検査と治療【保険診療】

②糖尿病性腎症(早期・顕性)を視点とした検査・経過観察

- 糖尿病型の診断
- 尿中アルブミン排泄量の測定
※尿中アルブミン濃度/尿中クレアチン濃度(比)で評価
※糖尿病型診断後(3ヶ月1回)
- 網膜症検査

①腎機能を視点とした検査・経過観察

- 検尿再検(試験紙法 随時尿)
2回以上※1回は可能なかぎり早朝尿
- 尿沈渣顕微鏡検査
- 尿蛋白排泄量の測定
※尿蛋白濃度/尿中クレアチン濃度(比)で評価

③上記(①・②)の悪化因子の把握と是正

【腎臓専門医紹介基準】

いずれかに該当

- 0.5g/gクレアチニン以上
または2+以上の蛋白尿
- eGFR50未満
(70歳以上は40未満)
- 蛋白尿と血尿がともに陽性
(1+以上)
- 糖尿病で顕性アルブミン尿検出

速やかに紹介する基準

- (1) 蛋白尿の急激な増加
- (2) 急速な腎機能低下
(GFRが3ヶ月で30%以上減少)
- (3) eGFR<30
CKD診療ガイドより参照

※診療情報提供書の活用
※糖尿病連携手帳の活用

併診

様式2 (FAX) 紹介の際に送付
様式4-1 (郵送)

健康推進課
(事業評価・検討)

様式3-1

様式4-1・2 (郵送)

二次医療機関（腎臓専門医）

●精査と治療【保険診療】

慢性腎臓病（CKD）予防連携システムについて

1 事業目的

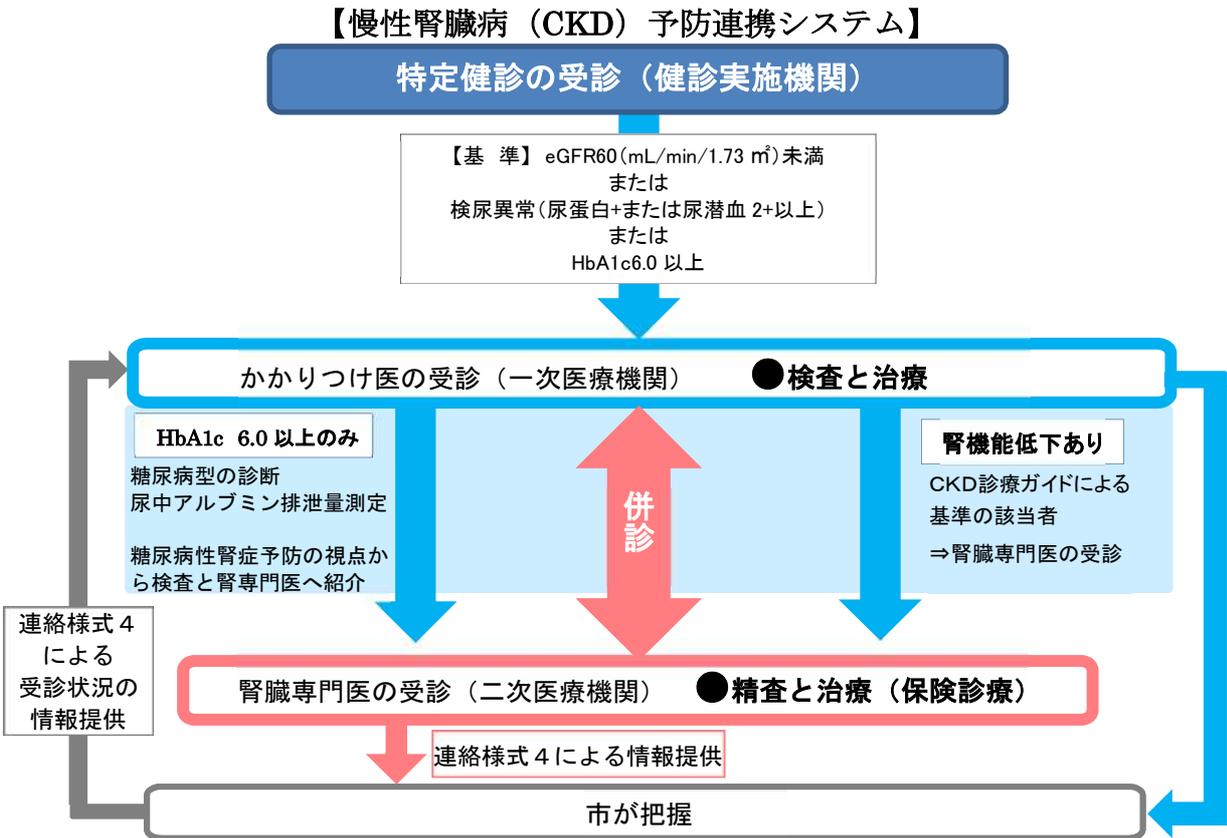
生活習慣病予防・重症化予防及び医療費適正化を図るため、慢性腎臓病（CKD）予防の取組を実施することで、人工透析導入への進行を阻止するとともに心血管疾患の発症を抑制することを目的とする。

2 慢性腎臓病（CKD）予防連携システムの内容

- (1) 特定健診の結果、システムの基準にもとづき、かかりつけ医（一次医療機関）で精査後、腎臓専門医（二次医療機関）への受診を促す。
- (2) 平成22年度から腎臓専門医・かかりつけ医・行政で構成する意見交換会で、システム内容等を検討。
- (3) 平成23年度から運用開始。
平成26年度から糖尿病性腎症予防の取組を追加。

3 令和元年度のシステム運用状況

特定健診受診者	50,354人（A）	対象者に対する割合
一次医療機関受診対象者 （HbA1cからのルート 9,630人を含む）	25,202人（B）	50.0%（B/A） 30.9%（HbA1c除く）
二次医療機関受診対象者	2,504人（C）	4.9%（C/A）
CKD様式4（二次医療機関連絡票・新規） 返信数	65人（D）	2.6%（D/C）



慢性腎臓病（CKD）予防連携システム運用状況

1 年度内の各様式返信数（慢性腎臓病（CKD）予防連携システム運用状況）

運用状況	年度	26	27	28	29	30	R1
	様式2 ※一次医療機関から二次医療機関へ紹介連絡票		46	81	102	102	77
様式4 ※二次医療機関受診者連絡票		211	244	251	193	96	65

・様式2は一次医療機関より、様式4は二次医療機関から行政への返信様式

2 健診結果による一次医療機関および二次医療機関受診対象者数

		年度	26	27	28	29	30	R1
対象者数	特定健診受診者 (A)		60,988人	61,336人	59,175人	56,858人	55,709人	50,354人
	一次医療機関受診対象者 (B) ※糖のルートを除く (B/A)		15,773人 25.9%	18,107人 29.5%	17,914人 30.3%	17,570人 30.9%	18,010人 32.3%	15,574人 30.9%
対象者数	二次医療機関受診対象者の者 (C) ※健診時の結果より推計 (C/A)		2,798人 4.6%	3,138人 5.1%	3,101人 5.2%	3,162人 5.6%	3,508人 6.3%	2,504人 5.0%
	専門医受診あり (D) ※問診より (D/C)		673人 24.1%	643人 20.5%	668人 21.5%	676人 21.4%	764人 21.8%	554人 22.1%
	新規二次医療機関受診対象者 (E) ((C) - (D)) ※推計値 (E/A)		2,125人 3.5%	2,495人 4.1%	2,433人 4.1%	2,486人 4.4%	2,744人 4.9%	1,950人 3.9%
	HbA1cのルート (F) (F/A)		9,396人 15.4%	9,795人 20.0%	9,699人 16.4%	9,499人 16.7%	10,008人 18.0%	9,630人 19.1%

- ・特定健診受診者 (A) は受診者総数 (当該年度 75 歳を含む)
- ・二次医療機関受診対象者 (C) は健診時検査値により北九州市慢性腎臓病予防連携システムによる二次医療機関受診基準該当者

3 様式運用率

年度	26	27	28	29	30	R1
様式返信数を新規二次医療機関受診対象推計数 (E) に対する割合	9.9%	9.8%	10.3%	7.8%	3.5%	3.3%

取組の成果

【図 3 - 1】新規透析導入者の推移

市町村名	国保										後期									
	27年度	被保千対	28年度	被保千対	29年度	被保千対	30年度	被保千対	31年度	被保千対	27年度	被保千対	28年度	被保千対	29年度	被保千対	30年度	被保千対	31年度	被保千対
北九州市 (後期74歳まで)	104	0.44	111	0.49	94	0.44	98	0.47	103	0.51	196 (36)	1.41	194 (29)	1.35	210 (32)	1.54	199 (28)	1.33	185 (28)	1.22
福岡県	476	0.38	459	0.38	457	0.40	508	0.44	487	0.43	747	1.17	759	1.15	787	1.17	787	1.14	787	1.12

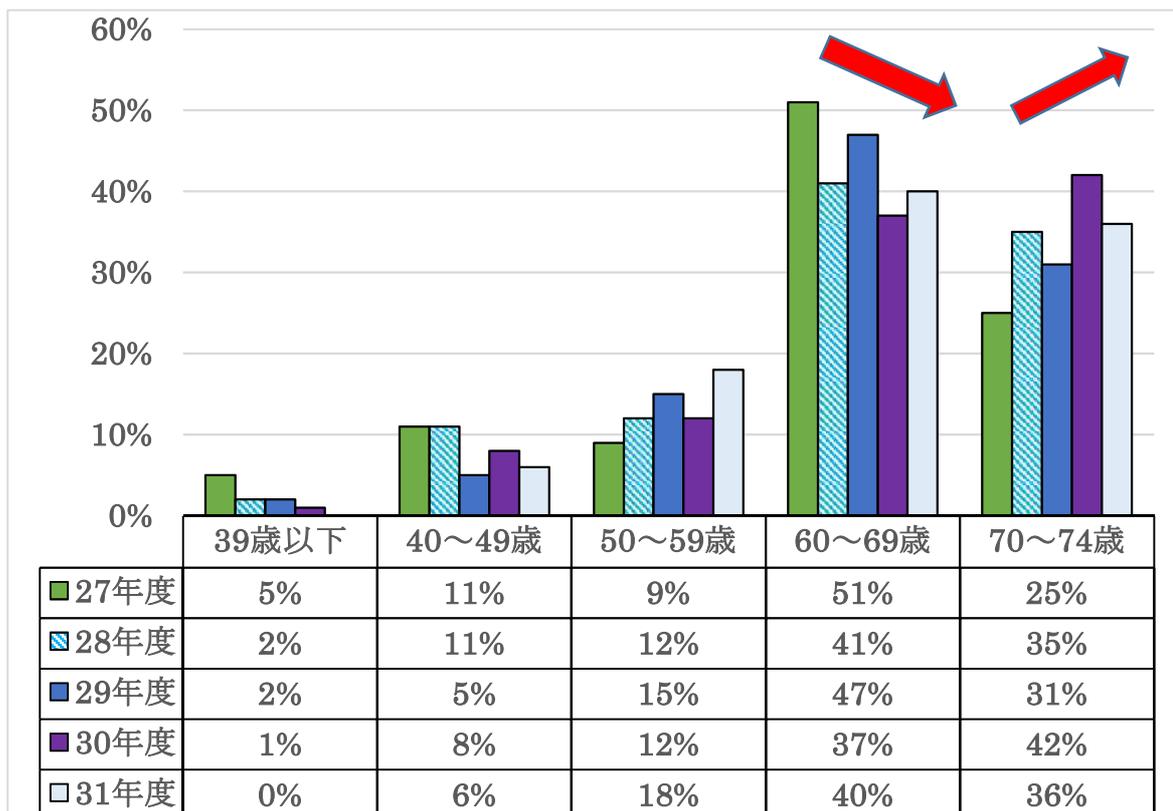
【出典】保健事業評価・分析システム

【図 3 - 2】新規透析導入患者数の年齢別の推移

	国保				後期	国保後期合計
	50歳未満	50~59歳	60~69歳	70~74歳		
27年度	16人	9人	53人	26人	196人	300人
28年度	14人	13人	45人	39人	194人	305人
29年度	7人	14人	44人	29人	210人	304人
30年度	9人	12人	36人	41人	199人	297人
31年度	6人	19人	41人	37人	185人	288人

【出典】保健事業評価・分析システム

【図 3 - 3】新規導入患者数に占める各年代の割合（国保）



「お薬手帳」に貼る「CKD 重症度シール」の作成について

1. 内容

以下の目的で「お薬手帳」に貼るシールを作成してはどうか。

【かかりつけ医】患者の状態を他科と共有する。

【薬剤師】腎機能低下者について、禁忌薬剤についてチェックする。

【患者】自身の腎機能の重症度について関心を持つ。

2. 作成に当たり注意が必要なこと

- ・ 薬手帳の表紙情報を侵害しない
- ・ 対象者の疾患情報を全面に出さない
- ・ 検査・処方の際に関係者にわかりやすい
- ・ 進行する疾患であり、患者の変化がわかるものである。
- ・ シール発行元（問い合わせ先）がわかる

3. ヒートマップシール（案）

対象者の検査結果より重症度分類された区分のヒートマップカラーのシールをお薬手帳に添付する。



〈参考〉

原疾患	尿蛋白区分		A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量(mg/日)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比(mg/gCr)		30未満	30~299	300以上
高血圧、腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎、不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)		正常 (-)	軽度蛋白尿 (±)	高度蛋白尿 (+~)
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (ml/分 /1.73ml)	G1	正常	①	②血尿+なら紹介、蛋白尿のみなら 生活指導・診療継続	③紹介
		または高値 ≥90			
	G2	正常または 軽度低下	①	②血尿+なら紹介、蛋白尿のみなら 生活指導・診療継続	③紹介
		60~89			
	G3a	軽度~	②40歳未満は紹介、40歳以上は 生活指導・診療継続	③紹介	④紹介
		中等度低下 45~59			
G3b	中等度~	③紹介	④紹介	④紹介	
	高度低下 30~44				
G4	高度低下 15~29	③紹介	④紹介	④紹介	
G5	末期腎不全 (ESKD)	<15	③紹介	④紹介	④紹介

ヒートマップシールの種類

【原案】



【修正案①】



【修正案②】



CKD 重症度分類

原疾患		尿蛋白区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量(mg/日)		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		尿アルブミン/Cr比(mg/gCr)		30未満	30~299	300以上
高血圧、腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎、不明 その他		尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr比 (g/gCr)		正常 (-)	軽度蛋白尿 (±)	高度蛋白尿 (+~)
				0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (ml/分 /1.73m ²)	G1	正常	≥90	①	②血尿+なら紹介、蛋白尿のみなら 生活指導・診療継続	③紹介
		または高値				
	G2	正常または 軽度低下	60~89	①	②血尿+なら紹介、蛋白尿のみなら 生活指導・診療継続	③紹介
		軽度~ 中等度低下	45~59	②40歳未満は紹介、40歳以上は 生活指導・診療継続		
	G3a	中等度~ 高度低下	30~44	③紹介	③紹介	④紹介
		高度低下	15~29	④紹介		
G4	末期腎不全 (ESKD)	<15	④紹介	④紹介	④紹介	